



VMware 環境でのコントローラのインストール

- VMware 環境の概要 (1 ページ)
- インストール オプション (2 ページ)
- VMware ESXi 環境でのインストール (3 ページ)
- VM 上でのネットワーク インターフェイスの作成 (4 ページ)
- 仮想スイッチの NIC チューニングの設定 (5 ページ)
- vSphere を使用した VM でのコントローラ OVA の導入に関する情報 (7 ページ)
- VM の基本プロパティの編集 (8 ページ)
- ISO イメージを使用したコントローラ用の VM の作成 (9 ページ)
- コントローラの電源投入 (10 ページ)
- ESXi のセルフ インストール .Run パッケージを使用したコントローラの作成 (11 ページ)
- ESXi のセルフ インストール .Run パッケージを使用したコントローラの作成 (11 ページ)

VMware 環境の概要

コントローラは、Cisco IOS-XE のオペレーティングシステムで実行されます。仮想インストールのイメージには、基盤となっている Cisco IOS-XE オペレーティング システムとワイヤレス コントローラ コードが含まれています。Cisco.com から Cisco IOS XE ソフトウェアをダウンロードし、仮想マシン (VM) 環境に直接インストールする必要があります。ただし、初期インストールプロセスの一環として、コントローラ ソフトウェアをインストールしてブートできるように、まず VM 属性をプロビジョニングする必要があります。

コントローラをインストールするために必要な高レベルのタスクを次に示します。



(注) それぞれのインストール オプションは、使用しているハイパーバイザに依存します。

OVA ファイルを使用したコントローラのインストール

1. コントローラ ソフトウェア (.ova ファイル) を Cisco.com からダウンロードします。
2. VM 上にネットワーク インターフェイスを作成します。
3. VMware vSphere クライアントを使用して OVA テンプレートを導入し、コントローラ VM を作成します。
4. VM に電源を投入し、コントローラ ソフトウェアをブートします。

コントローラ VM イメージ (OVA ファイル) の取得

1. クラウドの Cisco Catalyst 9800 ワイヤレス コントローラ [製品ページ](#)を開きます。
2. [Download Software] リンクをクリックし、[Download Software] ページを開きます。
3. [Download Software] ページで、モデルを選択します。
4. 該当する Cisco IOS XE ソフトウェアをクリックします。デフォルトでは、推奨される Cisco IOS XE のリリースが選択されます。
5. 使用可能なイメージのリストで [Download Now] または [Add to Cart] をクリックします。
6. 手順に従ってソフトウェアをダウンロードしてください。

インストールオプション

現在、コントローラは次のインストール オプションのみをサポートしています。

- VM 環境での OVA テンプレートの導入。
- ISO のインストールを使用したコントローラの導入。



(注) .ova ファイルは、初回インストールにのみ使用できます。これは、Cisco IOS XE ソフトウェアバージョンのアップグレードには使用できません。

ROMMON とコントローラ

コントローラには、シスコの多くのハードウェア ベースのデバイスに含まれているような ROMMON イメージは含まれていません。最初のブートローダ プロセス中に、インストール スクリプトにより、ゴールデンイメージと呼ばれるコントローラ ソフトウェア イメージのクリーンバージョンが作成され、アクセス不可能なパーティションに配置されます。このクリーンバージョンはソフトウェア イメージが適切に機能していない場合やブートできない場合に使用できます。

VMware ESXi 環境でのインストール

この項では、VMware ツールに関する情報と、最新の Cisco IOS XE ソフトウェアを実行しているコントローラの VM の要件、およびサポート対象の VM 機能のリストを示します。

コントローラは、VMware ESXi ハイパーバイザ上で実行できます。同じハイパーバイザを使用して複数の VM を実行できます。

VMware vSphere の Web クライアントは PC 上で実行し、vCenter サーバにアクセスする Web アプリケーションです。VMware vSphere Web クライアント ソフトウェアを使用して VMware vCenter Server 上で VM を作成、設定、管理したり、コントローラを起動または停止できます。

vSphere 製品のインストールの詳細については、対応する [VMware 製品のドキュメント](#) を参照してください。

VMware 要件

次に、コントローラの導入に必要な VMware ツールを示します。

- VMware vSphere Web クライアント 次のバージョンがサポートされています。
 - VMware vSphere Web Client 6.0
- VMware vCenter Server。 次のバージョンがサポートされています。
 - VMware ESXi 6.0 Update 2 (vm11 を実行しているインスタンス) このバージョンはパフォーマンスのベンチマークを満たしており、完全にテストが行われ、推奨されています。
- VMware vSwitch。 標準または分散型の vSwitch がサポートされています。
- ハードドライブ。 単一ハードディスクドライブのみがサポートされています。1台のVM上で複数のハードディスクドライブはサポートされません。
- vCPU。 次の vCPU 設定がサポートされています。
 - [Small Template] : vCPU X 4 (最小 4 GB の RAM の割り当てが必要)
 - [Medium Template] : vCPU X 6 (最小 16 GB の RAM の割り当てが必要)
 - [Large Template] : vCPU X 10 (最小 32 GB の RAM の割り当てが必要)
- 仮想 CPU コア
- 仮想ハードディスク領域 : 最小 8 GB が必要です。
- 仮想ネットワーク インターフェイス カード (vNIC) 。

サポートされている VMware 機能と操作

VMware では、仮想アプリケーションを管理したり、複製、移行、シャットダウン、復帰などの操作を実行したりするためのさまざまな機能と操作がサポートされています。

これらの操作の一部では、VM の実行時状態が保存され、再起動時に復元されます。実行時状態にトラフィック関連状態が含まれていると、実行時状態を回復または再生するときに、ユーザコンソールに追加のエラー、統計情報、またはメッセージが表示されます。設定のみに基づいて回復される保存状態の場合は、これらの機能と動作を問題なく使用できます。



注意 コントローラのすべてのバージョンで次の VMware 機能および動作はサポートされていませんが、パケットのドロップ、接続の切断、およびその他のエラーの統計情報が発生するリスクを負えば、サポート対象外のバージョンでも使用できます。

- 分散リソース スケジューリング (DRS)
- 耐障害性
- 再開
- スナップショット
- 一時停止
- vMotion
- vNIC チーミング
- レイヤ 2 LAG
- SRIOV

VMware の機能と動作の詳細については、対応する [VMware のドキュメント](#) を参照してください。

VM 上でのネットワーク インターフェイスの作成

VMware vSphere クライアントで次のタスクを実行してネットワーク インターフェイスを作成します。

始める前に

この手順は、コントローラの初回インストールにのみ必要です。

- ステップ 1** VMware vSphere Client にログインします。
- ステップ 2** vSphere GUI で、[Configuration] タブをクリックします。
- ステップ 3** [Networking] 領域で、[Add Networking...] をクリックします。

ステップ 4 [Connection Type] で、デフォルトの設定をそのままにし、[Next] をクリックします。

ステップ 5 [Network Access] で VM の名前のいずれかを選択します。

ステップ 6 [Next] をクリックします。

ステップ 7 [Connection Settings] で、[Network Label] フィールドに名前を入力します。

ステップ 8 [VLAN ID (Optional)] ドロップダウンリストで [All (4095)] を選択します。

ステップ 9 [Next] をクリックします。

ステップ 10 [Summary] で、更新を確認し、[Finish] をクリックします。

新しく追加したネットワーク インターフェイスが [Networking] 領域で使用できるようになります。

仮想スイッチの NIC チーミングの設定

複数の物理 NIC を 1 つのチームに含めることで、仮想スイッチのネットワーク容量を増やすことができます。これは、NIC チーミングと呼ばれます。仮想スイッチがチーム内の物理 NIC 間のネットワークトラフィックを分散させる方法を配布するには、環境のニーズと能力に応じてロードバランシングを選択します。

仮想スイッチで NIC チーミングを設定するには、VMware vSphere クライアントで次のタスクを実行します。

始める前に

この手順は、NIC チーミングを設定する場合にのみ必要です。



(注) VMXNET3 は、コントローラでサポートされている仮想アダプタ タイプです。

ステップ 1 VMware vSphere Client にログインします。

ステップ 2 [仮想スイッチ (Virtual Switches)] に移動します。

ステップ 3 仮想スイッチのプロパティを表示するには、[編集 (Edit)] をクリックします。

ステップ 4 [仮想スイッチのプロパティ (Virtual switch properties)] ページの [NIC チーミング] タブに移動します。

ステップ 5 [ロードバランシング (Load Balancing)] ドロップダウンメニューから、仮想スイッチがチーム内の物理 NIC 間の発信トラフィックのロードバランシングを行う方法を指定します。

仮想スイッチでは、次のオプションを設定できます。

- 発信元仮想ポート ID に基づくルート：スイッチの仮想ポート ID に基づいてアップリンクを選択します。
- IP ハッシュに基づくルート：各パケットの送信元および宛先 IP アドレスのハッシュに基づいてアップリンクを選択します。

- 送信元 MAC ハッシュに基づくルート：送信元イーサネットのハッシュに基づいてアップリンクを選択します。
- 明示的なフェールオーバー順序の使用：フェールオーバー検出基準を満たすアクティブなアダプタのリストから最も高い順序のアップリンクを使用します。このオプションでは、実際のロードバランシングは実行されません。

ステップ 6 [ネットワークフェールオーバー検出 (Network Failover detection)] ドロップダウンメニューから、フェールオーバー検出の方法を指定します。

仮想スイッチでは、次のオプションを設定できます。

- リンクステータスのみ：ネットワークアダプタによって提供されるリンクステータスに依存します。このオプションは、物理スイッチの電源障害や削除されたケーブルなどの障害を検出します。
- ビーコンプロービング：チーム内のすべての NIC でビーコンプローブを送受信し、リンクステータスとともにこの詳細を使用してリンク障害を判別します。

ステップ 7 スイッチにフェールオーバーを通知するには、[通知スイッチ (Notify Switches)] ドロップダウンメニューから [はい (Yes)] または [いいえ (No)] を選択します。

ステップ 8 [フェールバック (Failback)] ドロップダウンメニューから、障害から回復した後に物理アダプタをアクティブステータスに戻すかどうかを選択します。

フェールバックが [はい (Yes)] に設定されている場合、アダプタはリカバリ後すぐにアクティブに戻ります。デフォルトでは、フェールバックポリシーは NIC チームで有効になっています。

フェールバックが [いいえ (No)] に設定されている場合、障害が発生したアダプタは、別のアクティブなアダプタに障害が発生し、交換が必要になるまで回復後は非アクティブのままになります。

(注) フェールオーバー順序の最初の物理 NIC で断続的な障害が発生した場合、フェールバックポリシーにより NIC が頻繁に更新される可能性があります。物理スイッチの MAC アドレスが頻繁に変更されるため、アダプタがオンラインになった直後に物理ポートがトラフィックを受け入れない可能性があります。このような遅延を最小限に抑えるために、物理スイッチで次の設定を変更できます。

- ESXi ホストに接続されている物理 NIC でスパニング ツリー プロトコル (STP) を無効にします。
- アクセス インターフェイスとトランク インターフェイスの PortFast モードまたは PortFast トランク モードをそれぞれ有効にします。これにより、物理スイッチ ポートの初期化中に約 30 秒間短縮されます。

ステップ 9 設定を確認して、設定を適用します。

vSphere を使用した VM でのコントローラ OVA の導入に関する情報

提供されたコントローラ OVA ファイルパッケージを使用して、コントローラを VM に導入できます。

VMware vSphere クライアント、VMware OVF ツール、または共通の OVF ツール (COT) を使用して、OVA を導入できます。

制限事項および要件

OVA パッケージを VM に導入する場合は、次の制限事項が適用されます。

- 仮想 CPU 設定を変更した場合は、コントローラをリブートする必要があります。RAM 割り当ての変更では、コントローラをリブートする必要ありません。
- OVA を導入する場合、VM には、OVF 環境ファイル用に 1 台と .iso ファイル用に 1 台の 2 台の仮想 CD/DVD ドライブが必要です。

vSphere を使用した VM でのコントローラ OVA ファイルの導入

VMware vSphere クライアントで次のステップを実行します。

提供されたコントローラ OVA ファイルパッケージを使用して、コントローラを VM に導入できます。

VMware vSphere クライアント、VMware OVF ツール、または共通の OVF ツールを使用して、OVA を導入できます。

始める前に

- 仮想 CPU 設定を変更した場合は、コントローラをリブートする必要があります。ただし、RAM 割り当ての変更では、コントローラをリブートする必要ありません。
- OVA を導入する場合、VM には、OVF 環境ファイル用に 1 台と .iso ファイル用に 1 台の 2 台の仮想 CD/DVD ドライブが必要です。
- ネットワーク インターフェイスが正しく設定されていることを確認します。

-
- ステップ 1** VMware vSphere Client にログインします。
 - ステップ 2** vSphere クライアントのメニューから、[File] > [Deploy OVF Template] を選択します。
 - ステップ 3** OVA ウィザードで、導入するコントローラの OVA の送信元を選択します。
[OVF Template Details] ウィンドウに OVA に関する情報が表示されます。
 - ステップ 4** [Next] をクリックします。

- ステップ 5 [Name and Location] フィールドで、VM の名前を指定し、[Next] をクリックします。
- ステップ 6 [Next] をクリックします。
- ステップ 7 [Deployment Configuration] で、ドロップダウンリストから必要なプロファイルを選択します。
- ステップ 8 [Disk Format] で、デフォルトの設定 ([Thick Provision Lazy Zeroed]) をそのままにし、[Next] をクリックします。
- ステップ 9 [Network Mapping] ドロップダウンリストで、宛先ネットワークに1つ以上の仮想ネットワーク インターフェイスカード (vNIC) を割り当てます。一意のインターフェイスに各ネットワークを接続します。次のマッピングをお勧めします。
- GigabitEthernet 1 からデバイス管理インターフェイス：アウトオブバンド管理ネットワークにマッピングします。
 - GigabitEthernet 2 からワイヤレス管理インターフェイス：AP とサービスに到達するネットワークにマッピングします。通常、このインターフェイスは複数の VLAN を伝送するトランクです。
 - GigabitEthernet 3 から高可用性インターフェイス：SSO のピアツーピア通信用の別のネットワークにマッピングします。
- ステップ 10 [Ready to Complete] で、すべての導入設定を確認します。
- ステップ 11 [Finish] をクリックして OVA を展開します。
コントローラ VM が左側のパネルに表示されます。
- ステップ 12 VM の電源を自動的に投入するには、[Power On] をクリックします。

VM の基本プロパティの編集

VMware vSphere クライアントで次のタスクを実行します。

- ステップ 1 VMware vSphere Client にログインします。
- ステップ 2 vSphere GUI で、[Configuration] タブをクリックします。
- ステップ 3 [Networking] 領域で、新しく追加したネットワーク インターフェイスの [Properties] をクリックします。
- ステップ 4 [Edit] をクリックしてネットワーク インターフェイスのプロパティを表示します。
- ステップ 5 [Security] タブをクリックします。
- ステップ 6 オンになっている VM 名をオフにします。
- ステップ 7 [Promiscuous Mode] で、次のタスクを実行します。

デフォルトでは [Promiscuous Mode] は [Reject] に設定されています。

- (注) 無差別モードは、vSphere ESXi の仮想スイッチまたはポートグループ レベルで定義できるセキュリティ ポリシーです。このモードを使用しないと、タグ付けされたトラフィックが適切にフローしません。

- チェックボックスをオンにします。
- ドロップダウンリストで [Accept] を選択し、このスイッチを通じて送受信されるトラフィックを表示します。

(注) [Forged Transmits] も [Accept] に設定されていることを確認します。

ステップ 8 [OK] をクリックした後、[Close] をクリックします。

ISO イメージを使用したコントローラ用の VM の作成

次の手順で、VMware vSphere を使用したコントローラの導入方法に関する一般的なガイドラインを示します。ただし、実行する必要がある正確なステップは、VMware 環境と設定の特性に応じて異なる場合があります。

始める前に

vSphere クライアントがマシンにインストールされていることを確認します。

- ステップ 1 VMware vSphere Client にログインします。
- ステップ 2 vSphere クライアントのメニューで、[File] > [New] > [Virtual Machine] を選択します。
- ステップ 3 [Create New Virtual Machine] ウィンドウで、[Custom] を選択し、[Next] をクリックします。
- ステップ 4 VM の名前を入力し、[Next] をクリックします。
- ステップ 5 VM ファイルに [Datastore] を選択して、[Next] をクリックします。
- ステップ 6 [Virtual Machine Version] を選択し、[Next] をクリックします。
- ステップ 7 [Guest Operating System] ウィンドウで [Other] を選択し、[Version] ドロップダウンリストから [Other (64-bit)] をバージョンとして選択し、[Next] をクリックします。
- ステップ 8 [CPU] の下で、次の設定を選択します。

- 仮想ソケット（仮想 CPU）の数
- ソケットあたりのコア数

ソケットごとのコアの数は、選択されている仮想ソケットの数に関係なく、常に [1] に設定する必要があります。たとえば、4 vCPU 設定のコントローラは、4 つのソケットおよびソケットあたり 1 のコアで設定する必要があります。

仮想 CPU のサポート対象数と、それに対応する RAM の必要な割り当ては導入するプロファイルによって異なります。

- ステップ 9 [Memory] で、プロファイルのサポート対象のメモリ サイズを設定し、[Next] をクリックします。
- ステップ 10 [Network] で、導入するプロファイルに基づいて 2 つ（HA が必要な場合は 3 つ）の vNIC を割り当てます。

- a) [How many NICs do yo want to connect?] ドロップダウンリストで、接続する vNIC の数を選択します。
- b) [Network] ドロップダウンリストで、vNIC を選択します。
(vNIC ごとに異なるネットワークを選択します)
(注) 2 または 3 つのインターフェイスを追加することをお勧めします (デバイス管理に 1 つ、ワイヤレス管理に 1 つ、HA を設定する場合は HA に 1 つ)。
- c) [Adapter] ドロップダウンリストからアダプタ タイプとして [VMXNET3] を選択します。
- d) すべての vNIC を選択して電源投入時に接続します。
- e) [Next] をクリックします。

ステップ 11 [SCSI Controller] ウィンドウで、[SCSI Controller] に [VMware Paravirtual] を選択し、[Next] をクリックします。

ステップ 12 [Create a Disk] ウィンドウで、次の値を選択します。

- [Capacity] : ディスク サイズ。8 GB のディスクをお勧めします。
- [Disk Provisioning] : [Thick Provision Lazy Zeroed] または [Thick Provision Eager Zeroed] のいずれかを選択します。
- [Location] : 仮想マシンを持つストア。

ステップ 13 [Next] をクリックします。

ステップ 14 [Advanced Options] ウィンドウで、[Virtual Device Node] を選択し、[Next] をクリックします。

ステップ 15 [Finish] をクリックします。

ステップ 16 新たに作成したインスタンスに移動して右クリックし、[Edit Settings] を選択します。

ステップ 17 [Hardware] タブで、[CD/DVD Drive] をクリックします。

- a) [Datastore ISO File] オプションとして、VM のブート元の **デバイス タイプ** を選択します。データストア上の .iso ファイルの場所を参照します。コントローラ ISO ファイルが選択されていることを確認します。
- b) [Device Status] 領域で、[Connect at power on] チェックボックスをオンにします。

ステップ 18 [OK] をクリックします。

これで、VM が設定され、ブートする準備が整います。VM の電源投入時にコントローラがブートされます。

コントローラの電源投入

コントローラを起動するには、次のステップを実行します。

ステップ 1 vSphere クライアントから仮想スイッチを選択します。

ステップ 2 VM を選択し、[Power On] をクリックします。

VM が起動プロセスを開始します。VM が起動すると、コントローラはブート プロセスを開始します。

ESXI のセルフ インストール .Run パッケージを使用した コントローラの作成

Cisco Catalyst 9800 Wireless Controller ESXI インストーラ パッケージは、ESXI のセルフインストール パッケージです。

インストールでは、次の手順で説明するように、バンドルされたコントローラ イメージ ファイルと、Small (1kAPs-10kClients)、Medium (3kAPs-32kClients)、Large (6kAPs-64kClients) などの VM 設定オプションから 1 つが使用されます。

ESXI のセルフ インストール .Run パッケージを使用した コントローラの作成

始める前に

Cisco Catalyst 9800 ワイヤレス コントローラ ソフトウェア インストール イメージ パッケージ から .run 実行可能ファイルをダウンロードし、ローカル ドライブにコピーします。

パッケージを実行するには、次のツールが必要です。

- OVF ツール
- SSHPass

このパッケージは、次のオペレーティング システムをサポートしています。

- Linux
- Mac OS

ステップ 1 実行可能ファイルを実行して、コントローラ VM を起動します。

```
Device:code$/bin/bash setup_C9800-CL_esxi.sh
```

ステップ 2 次のオプションから導入プロファイルを選択します。

- **1Kaps-10kClients** : (4 つの vCPUs/8 GB RAM/3 Vcpus/8 GB ディスク) を使用して C9800-CL を展開します。
- **3Kaps-32kClients** : (6 つの vCPUs/16 GB RAM/3 Vcpus/8 GB ディスク) を使用して C9800-CL を展開します。

- **6Kaps-64kClients** : (10 vCPUs/32 GB RAM/3 Vcpus/8 GB ディスク) を使用して C9800-CL を展開します。

ステップ 3 コントローラのインスタンスプロファイルを選択するか、**enter** キーを押してデフォルトプロファイルを使用します。

```
Select the C9800-CL Instance Profile [2]: 1
```

ステップ 4 コントローラのインスタンス名を入力するか、**enter** キーを押してデフォルトの名前を使用します。

```
Enter the C9800-CL Instance Name [C9800-CL_574]: C9800-CL_574
```

ステップ 5 vCenter サーバを使用してコントローラのインスタンスをインストールするかどうかを確認します。

```
Do you want to deploy via vCenter Server [y/N]: y
```

ステップ 6 vCenter サーバの IPv4 アドレスを入力します。

```
Enter the IPv4 Address of the vCenter server: 10.105.203.182
```

ステップ 7 vCenter サーバのユーザ名を入力します。

```
Enter the username of the vCenter server: administrator@vsphere.local
```

ステップ 8 vCenter サーバのパスワードを入力します。

```
Enter the password of the vCenter server: *****
```

ステップ 9 Vhost サーバの IPv4 アドレスを入力します。

```
Enter the IPv4 Address of the Vhost server: 10.104.170.96
```

ステップ 10 Vhost サーバのユーザ名を入力します。

```
Enter the username of the Vhost server: root
```

ステップ 11 Vhost サーバのパスワードを入力します。

```
Enter the password of the Vhost server: *****
```

ステップ 12 システムは、次の例に示すように、使用可能なネットワークの名前を表示します。

```
Available Network Options:
```

1. 9.x Network
2. Dummy
3. Mgmt Network
4. VM Network
5. TLS-Private-NW

a) 上に表示されているリストからデバイス管理またはサービスネットワークの番号を入力するか、**enter** キーを押してデフォルト値を使用します。

```
Enter the Device Management/Service Network [1]: 2
```

b) 上に表示されているリストからワイヤレス管理ネットワークの番号を入力するか、**enter** キーを押してデフォルト値を使用します。

```
Enter the Wireless Management Network [2]: 2
```

c) 上に表示されているリストから高可用性 (HA) ネットワークの番号を入力するか、**enter** キーを押してデフォルト値を使用します。

```
Enter the High Availability Network [3]: 2
```

ステップ 13 オプションのリストから [データストア (datastore)] オプションを選択します。

```
Enter the Datastore option: 1
```

ステップ 14 HA インスタンスを作成します。

```
Do you want to create High Availability Instance [Y/n]: y
```

ステップ 15 HA インスタンスの vCenter サーバの IPv4 アドレスを入力します。

```
Enter the vCenter Server IPv4 Address for the High Availability instance[10.105.203.182]:  
10.104.169.46
```

(注) 同じ IP アドレスを再度使用すると、システムはユーザ名とパスワードの入力を求めません。

ステップ 16 vCenter サーバのユーザ名を入力します。

```
Enter the vCenter High Availability server username: administrator@vsphere.local
```

ステップ 17 vCenter サーバのパスワードを入力します。

```
Enter the vCenter High Availability server password: *****
```

ステップ 18 Vhost サーバの IPv4 アドレスを入力します。

```
Enter the IPv4 address of the vhost server for the High Availability instance [10.104.170.96]:  
10.104.169.45
```

(注) 同じ IP アドレスを再度使用すると、システムはユーザ名とパスワードの入力を求めません。

ステップ 19 HA Vhost サーバのユーザ名を入力します。

```
Enter the username of the High Availability vhost server: root
```

ステップ 20 HA Vhost サーバのパスワードを入力します。

```
Enter the password of the High Availability vhost server: root
```

ステップ 21 ホスト名を入力するか、enter キーを押してデフォルトの名前を使用します。

```
Enter Hostname [C9800-CL_574]: CL_574
```

ステップ 22 パスワードを入力し、ホストを有効化します。

```
Enter Enable Password: *****
```

ステップ 23 デバイス管理またはサービス インターフェイスの IPv4 アドレスを入力します。

```
Enter the Device Management/Service IPv4 Interface IPv4 address: 10.104.178.21
```

ステップ 24 デバイス管理またはサービス インターフェイスのネットマスクを入力します。

```
Enter the Device Management/Service Interface IPv4 netmask: 255.255.255.0
```

ステップ 25 デバイス管理またはサービス インターフェイスのゲートウェイ アドレスを入力します。

```
Enter the Device Management/Service Interface IPv4 gateway: 10.104.178.1
```

ステップ 26 デバイス管理またはサービス インターフェイスに到達するには、リモート ネットワークの IPv4 アドレスを入力します。

```
Enter the remote network to reach the Device Management/Service Interface: 8.0.0.0
```

ステップ 27 デバイス管理またはサービスインターフェイスに到達するには、リモートネットワークのネットマスクを入力します。

```
Enter the remote netmask to reach the Device Management/Service Interface: 255.0.0.0
```

ステップ 28 C9800-CL にアクセスするためのユーザ名を入力します。

```
Enter the Login Username: cisco
```

ステップ 29 ログインユーザ名のパスワードを入力します。

```
Enter the Login Password: *****
```

ステップ 30 HA インターフェイスのローカル IPv4 アドレスを入力します。

```
Enter the High Availability Interface Local IPv4 address: 192.168.10.2
```

(注) このオプションは、HA を有効にした場合にのみ使用できます。

ステップ 31 HA インターフェイスのローカル ネットワーク マスクを入力します。

```
Enter the High Availability Interface Local IPv4 netmask: 255.255.255.0
```

(注) このオプションは、HA を有効にした場合にのみ使用できます。

ステップ 32 HA インターフェイスのピア IPv4 アドレスを入力します。

```
Enter the High Availability Interface Peer IPv4 address: 192.168.10.3
```

(注) このオプションは、HA を有効にした場合にのみ使用できます。

ステップ 33 次の例に示されているようなサマリー設定が最後に表示されます。

```
Summary Configuration:
  Deployment Profile:           : 1kAPs-10kClients [1]
    vCPUs                       : 4
    Memory[GB]                 : 8
    Disk[GB]                   : 8
    vNICs                       : 3
  Instance Name                : C9800-CL_24495
  Vcenter IPv4 Address         : 10.105.203.182
  Vhost IPv4 Address           : 10.104.170.96
  Datastore                    : datastore
  Hostname                     : C9800-CL_24495
  Login Username               : cisco
  Network Configuration
    Device Management/Service Interface
      Interface                 : GigabitEthernet1
      Network                   : Dummy
      IPv4 Address              : 10.104.23.45
      IPv4 Netmask              : 255.255.255.0
      IPv4 Gateway              : 10.104.23.1
      Remote Network Route     : 8.0.0.0
      Remote Network Netmask   : 255.0.0.0
    Wireless Management Interface
      Interface                 : GigabitEthernet2
      Network                   : Dummy
    High Availability Interface
      Interface                 : GigabitEthernet3
      Network                   : Dummy
```

```
Local IPv4 Address      : 192.168.3.4
Local IPv4 Netmask     : 255.255.255.0
Peer IPv4 Address      : 192.168.3.5

High Availability Instance Information
vCenter IPv4 Address   : 10.105.203.182
Vhost IPv4 Address     : 10.104.170.96
Datastore              : datastore
Network Configuration
Device Management/Service Interface
  Interface            : GigabitEthernet1
  Network              : Dummy
Wireless Management Interface
  Interface            : GigabitEthernet2
  Network              : Dummy
High Availability Interface:
  Interface            : GigabitEthernet3
  Network              : Dummy
  Local IPv4 Address   : 192.168.3.5
  Local IPv4 Netmask   : 255.255.255.0
  Peer IPv4 Address    : 192.168.3.4

Do you want to create an C9800-CL instance [Y/n]: y
```

ステップ 34 コントローラ インスタンスの作成を続行するか、または中止するかを選択します。

```
Do you want to create an C9800-CL instance [Y/n]: y
```
